

平成 30 年度 ちぐさこども園 自己評価報告書

1. ちぐさこども園の教育目標

- 「意欲」 …… 面白いことや楽しいことを十分に体験を通して、
「〇〇したい」につながるエネルギーを心身ともに培う
- 「感性」 …… 様々な体験を通して、感じる心・表現する喜びを味わい、同時に知的な感覚を磨く
- 「思いやり」 …… 他者と共にする生活や遊びを通して、友だちと過ごす楽しさや難しさを味わいながら、
他者のことを慮る心や態度を培う。

2. 本年度の重点取組み事項

- ① 職員間の保育共有・連携： 3歳未満児(保育部)と3歳以上児(幼稚部)の保育者に意識差がある
- ② より充実した環境の構築： 園舎改築後の安全管理も含めて、環境をいかした保育をしているか

3. 重点的な取組みへの評価

項目	取組み内容	評価	
① 職員間の保育共有・連携	<ul style="list-style-type: none"> ・3つの保育目標に基づいた全体会議を実施(7月、3月) ・特別支援ケース会議を実施(9月、1月) 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の保育振り返りの観点にも、目標の言葉があり、かなり共有が図れてきた。 ・また、具体的な場面での共有は有意義だった。
② より充実した環境の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・安全をテーマにした全体会議を実施し、点検体制を構築(7月) ・アーティストを招聘して、保育素材等の物的な環境構成を見直し(10～3月) 	B+	<ul style="list-style-type: none"> ・安全見直し意識は向上したが、点検等の具体的取組みが不十分。 ・アーティストの招聘は大変有意義だった。

4. ちぐさこども園運営の総合的な評価(重点事項以外も含む)

評価	理由と次年度への課題
B+	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の保育共有・連携の深化をとおして、園全体の保育の質向上の成果がでてきている。さらに個別具体的な場面で、一つ一つ丁寧に保育を考えていく。 ・アーティスト(第三者)の招聘は、物的環境に留まらず、保育を見直す有意義な機会だった。次年度も継続・拡大していく。 ・代替職員の活用等により、休みが取りやすい体制を整え、「働き方改革」にもつとめた。